

平体功労賞証書

功労賞

平沼亮三

優れた業績と貢献をここに賞します

横浜市平沼記念体育館

2014年7月29日

功労賞は、正式なものではありませんが、平体職員からの感謝の気持ちを込めて、作成しました。

平沼亮三の足跡

平沼亮三は、明治12年（1879）2月25日、平沼九兵衛の長男として、現在の西区平沼町に生まれ、鶴鳴学校（現戸部小学校の前身）に入学、その後、慶応幼稚舎を経て、明治31年慶應義塾大学を卒業、家業の製塩業に携わる。

明治39年9月弁護士高木豊三の二女、婦美と結婚

。明治41年には29歳の若さで神奈川県議会議員、明治43年横浜市議会議員、大正13年衆議院議員、昭和7年貴族院議員となり政治家として活躍。

戦後、昭和26年には横浜市長（二期7年10か月）に当選する。

スポーツ界においては、明治44年大日本体育協会副会長をはじめ、多くの競技団体の会長をつとめ、昭和21年大日本体育会会長に就任。昭和23年横浜体育協会会長の要職に就く。

昭和30年、スポーツ界でははじめての文化勲章を受賞。

また、財界にあっては横浜商工会議所会頭をはじめ、多くの会社の取締役、監査役をつとめる。

昭和34年2月13日、横浜市長在職中79歳で他界、市民葬をもってあつく葬られた。

平沼亮三の業績

- 明治44年 • 大日本体育協会副会長就任
- 大正3年 • 慶応義塾大学野球部を引率して渡米
- 12年 • 第6回極東選手権競技大会(大阪)委員
- 13年 • 第1回明治神宮競技大会顧問
- 14年 • 大日本体育協会副会長
- 日本陸上競技連盟会長
- 明治神宮体育会副会長 横浜体育会会長
- 昭和2年 • 第8回極東選手権競技大会(上海)日本代表委員
- 3年 • 大日本排球協会会長
- 日仏対抗陸上競技大会実行委員
- 4年 • 日独対抗陸上競技大会副会長
- 体育運動審議会委員(文部省)
- 5年 • 全日本体操連盟会長
- 7年 • 第10回国際オリンピック大会(ロサンゼルス)日本選手団団長
- 東京六大学野球連盟会長
- 全日本学生水上競技連盟会長
- ドイツより十字章(2等)をおくられる
- 9年 • フィンランドより白バラ十字章(1等)をおくられる
- 11年 • 第10回極東選手権競技大会(マニラ)日本選手団団長
- 13年 • 第11回国際オリンピック大会(ベルリン)日本選手団団長
- 21年 • 日本送球協会会長
- 23年 • 大日本体育会会長 横浜体育協会会長
- 30年 • 文化勲章受賞
- 34年 • 勲1等瑞宝章受賞

スポーツと平沼亮三



NO.49 第10回国体神奈川県大会で炬火台に点火する市長

1 スポーツ界での活躍

平沼亮三とスポーツをめぐるエピソードは、「聖火をかかげて～スポーツ市長・平沼亮三伝～】(松本興著、昭和38年)や横浜貿易新報(神奈川新聞の前身)などに見ることができる。

平沼亮三は、スポーツを愛し、自らもスポーツを実践した人としてよく知られている。

相撲は特に有名であるが、柔道、剣道、野球、体操、テニスをはじめ、あらゆるスポーツを行い、文字どおりスポーツ万能選手でもあった。

そのために、平沼邸には、土俵、テニスコート、鉄棒などがつくられ、バドミントンや遊戯道具なども揃い、いつでもスポーツができる現在のスポーツセンター的な存在でもあった。

また、スポーツの祭典“オリンピック”では、第10回国際オリンピック大会(ロサンゼルス、昭和7年)、第11回国際オリンピック大会(ベルリン、昭和11年)の日本選手団団長として参加している。

スポーツと平沼亮三

この第11回大会では、西田修平選手と大江秀雄選手が棒高跳びの競技で、2位、3位となり、日の丸が掲揚されたが同記録だったため、銀・銅メダルを半分に切ってつなぎ合わせてメダルを分かち合ったという有名なエピソードがあり、「友情のメダル」として語り継がれている。一方、スポーツ界では、明治44年、32歳の若さで大日本体育協会副会長の要職に就いた。

その後、日本陸上競技連盟会長、大日本排球協会会長、全日本体操連盟会長、全日本学生水上競技連盟会長の要職に就き、昭和21年には大日本体育会会長に就任した。

戦後、地元においては、昭和23年横浜体育協会会長の要職をつとめた。

このように、平沼亮三は、数多くのスポーツ団体の要職に就き、その育成に心血を注いだのである。

このようなことを考えると、いかにスポーツを愛し、親身になってスポーツの普及に献身的であったかがうかがえる。



NO.104 体育運動の普及向上に対する表彰状

スポーツと平沼亮三



NO.18 第10回国体において
天皇・皇后両陛下に説明

2 炬火をかかげて

昭和30年秋、第10回国民体育大会神奈川県大会が横浜をメイン会場として開催され、三ツ沢公園内の陸上競技場に天皇、皇后両陛下をお迎えして開会式が行われた。

この時、陸上競技場を埋めた4万余の観衆を前にして、平沼亮三は炬火リレーの最終ランナーとして会場を一周し、横浜市長の要職にありながらも76歳の高齢を感じさせず、56段の階段を一気に駆け登り、炬火台に点火した。

前もって知らされていなかった観衆は総立ちとなり、両陛下も拍手を惜しまれなかった。

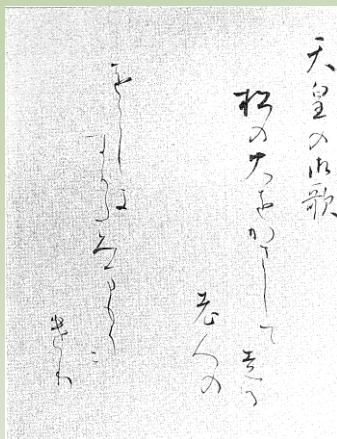


「松の火をかさして走る老人の

おおしき姿見まもりにけり」

これは翌年の新年歌会で、国民体育大会の炬火リレーの最終走者として走った平沼亮三の元気な姿をご覧になった昭和天皇が詠まれた歌である。

スポーツと平沼亮三



NO.14 昭和天皇の歌（秩父宮妃殿下筆）

文化勲章
受賞記念



この歌を陛下から賜った時は、人目をはばからずボロボロと大粒の涙を流して感激したと伝えられている。

このように、陛下が人を指して歌を詠まれることは極めてまれなことで、平沼亮三が2人目であったといわれている。

また、国民体育大会開催中の11月3日に、平沼亮三はスポーツ関係者としては初めて文化勲章を受賞した。

この日、宮内庁からわずか1時間たらずで三ツ沢公園陸上競技場に駆けつけ、胸に文化勲章をつけて大観衆に深々と頭を垂れ、惜しみない拍手を受けたことは、今でも関係者の語りぐさとなっている。

スポーツを愛し、スポーツを日常的な活動と考え、すべてのスポーツを奨励してきたことを思うと、平沼亮三にとって生涯で最良の年であったに違いない。

これから4年後、横浜市長在職中の昭和34年2月13日に、79歳の生涯を閉じたのである。

今は、三ツ沢公園の中央に炬火をかかげて走る立像が、横浜のスポーツ、ひいては日本のスポーツを見守るかのように静かに立っている。

この立像には、秩父宮妃殿下筆の手蹟「平沼さんの像」が刻まれ、裏には小泉信三の碑文がある。

スポーツの父

バイエ・ラツール伯を

自宅に招いて鉄棒を披露



平沼亮三は無類まれなスポーツ好きであり、そのスケールたるや現在でも驚くばかりである。スポーツ愛好者には、性別年代を問わず、自宅の施設を開放し、食事、入浴、宿泊の世話までやくといった徹底ぶりであった。

テニスをはじめ、野球、機械体操(鉄棒、平行棒、吊り輪)、相撲、柔剣道など、毎日なんらかのスポーツが行われ、ひとしきり運動したところでお腹が空くと、平沼家自慢のスポーツ・ライス(今でいうかつカレー)でもてなしたことはあまりにも有名な話である。スポーツの宮様で親しまれた秩父宮殿下にも評判の料理であった。

『贅沢な道楽』と陰口をたたかれながらも、決して費用を惜しまず献身的なサービス振りであったが、私生活では、小包のひもなどは手で解いてもう一度使うほどの締めまり屋でもあった。

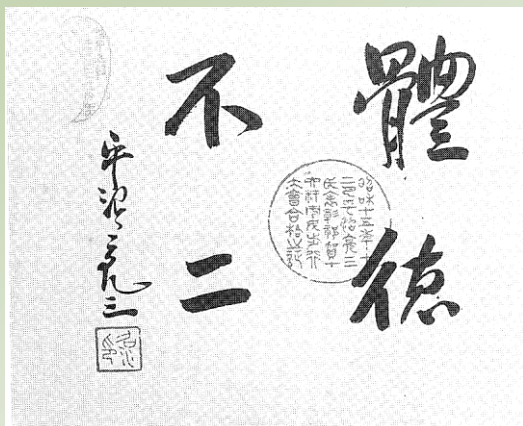
昭和19年7月、戦時中の折から、英語は敵性語として禁止されていた時代に「スポーツ生活六十年」の自伝を慶応出版社から出版している。

その序文で、スポーツという言葉も敵性語には違いないが、と認めたのちに、次のように述べている。

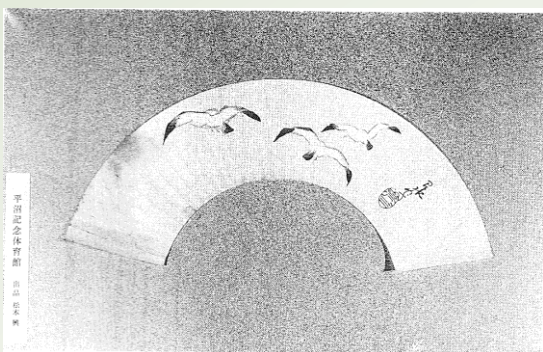
「…これは、単にスポーツという文字だけの問題ではない。スポーツそのものの内容にも同じようなことがいえる。これも、敵性というだけで簡単にかたづけようとするれば、勢い、わりきれぬものがでて来るのではあるまいか。要は、形式ではない。精神である。スポーツの精神、それをしっかりと把握することだ。言葉や経緯などは、末梢のことではないかと考える…」。

スポーツの父

NO. 19 自筆の色紙



NO.112 自筆の絵「かもめ」



スポーツに対する造詣の深さは、単なるスポーツ好きとしてすませることはできない。この横浜の地を、日本を、誰もがスポーツのできる社会を築こうと、スポーツ界、政財界を通して尽力した功績は、まさに「スポーツの父」と呼ぶにふさわしく面目躍如たるものである。

こうした平沼亮三のスポーツ界での業績を称え、日本陸上競技連盟では、高校生競技者または18才未満の勤労競技者の指導者として特に功労のあった者に“平沼亮三章”を贈与している。

平成10年には、第53回国民体育大会(夏期・秋期大会)が「かながわ・ゆめ国体」として、また第34回全国身体障害者スポーツ大会が「かながわ・ゆめ大会」として開催される。

平沼記念体育館は、この「かながわ・ゆめ国体」のハンドボール会場となる。

昭和30年の第10回国民体育大会神奈川県大会で、炬火リレーの最終ランナーとしてメイン会場の三ツ沢公園陸上競技場を一周し、炬火台に点火した姿を思い浮かべ、平沼亮三の「スポーツに対する信条」こそその足跡を考えると、今日の市民スポーツの隆盛に新たな感慨を覚えると共に、更なる市民スポーツの振興を願わずにはいられない。

横浜市平沼記念体育館 の設立

NO. 43 1日里親の市長



1 横浜市平沼記念体育館のあらまし

横浜市平沼記念体育館は、三ツ沢公園の入口に位置し、アリーナ(競技場)と平沼亮三に関係した記念品等を展示する5階建ての記念棟から構成されている。

アリーナ(1,348㎡)は、ハンドボール、バスケットボール、バレーボール、バドミントン、フットサル、卓球、体操競技などができ、観覧席は、固定席264人、立見席136人の合計400人を収容することができる。

記念棟は、2階、3階が平沼亮三に関係した記念品等の資料展示室と5階の展望室からなっている。

展示室には、平沼亮三ゆかりの記念品の数々や関係資料が豊富に展示されている。

また、展望室からは、三ツ沢公園を眼下に、ベイブリッジのほか「みなとみらい21」のビル群を一望にし遠くは丹沢、箱根や富士山を見渡すことができ、360度の大パノラマが楽しめる。

さらに、目を転じて南南東の方向、山下埠頭と線を引いてみると、平沼亮三の祖父と父の開拓した平沼新田、現在の西区平沼町を眺めることができる市内一の場所と言っても決して過言ではない。

横浜市平沼記念体育館 の設立

展示室内



2 体育館設立のいきさつ

(1) 平沼亮三とスポーツ振興

平沼亮三はスポーツをこよなく愛し、自らも相撲、柔道、剣道、体操、野球、庭球、ボート、バレーボール、バスケットボールなど多くのスポーツを行い、これらの競技の発展に力を注いだ。

一方では、大日本体育会会長をはじめ、かすかすのアマチュアスポーツ団体等の要職に就き、その育成と振興に尽力され、ロサンゼルス、ベルリン両オリンピック大会の日本選手団団長としても活躍されたことは前にも述べたとおりである。

さらに、「スポーツを通じて、市民の協調と団結意識を高めよう」と体育、特にアマチュアスポーツの振興に力を入れ、「市民の誰もがいつでもスポーツのできる体育館」の建設を提唱されながら、志半ばにして昭和34年2月13日に故人となった

(2) 平沼記念体育館建設期成会の結成

平沼記念体育館は、平沼亮三が横浜市長在職中の昭和30年11月に文化勲章を受賞したのを契機に、平沼亮三のこれまでのスポーツに対する功績を称え記念体育館建設の機運が盛り上がり、昭和32年10月、当時の横浜市議会議長津村峯男氏を中心として、平沼記念体育館建設期成会が結成された。

この期成会が平沼記念体育館建設のための募金運動を開始し、約970万円を集めた。

横浜市平沼記念体育館 の設立

平成10年8月日韓ハンドボール
交流大会



(3) 平沼記念体育館建設協議会の発足

昭和44年2月に横浜市や神奈川県、横浜市会、県議会及び一般市民など各界の代表者からなる平沼記念体育館建設協議会が発足した。

この建設協議会の発足に当たって、当時の飛鳥田市長は挨拶の中で、「この平沼記念体育館建設について、お含みおきいただきたいことは、市民の要望によって建設するものである。」と述べている。

体育館は、昭和44年12月に着工し、昭和45年11月完成した。

(4) 平沼記念体育館の命名

この体育館は三ツ沢公園総合競技場の一施設として建設され、全国的に「スポーツの父」として親しまれ、また「横浜市議」、「横浜市長」として、長く国民及び横浜市民の体育の向上に寄与された平沼亮三の功績を顕彰し、その名称を「平沼記念体育館」とした。

(5) 平沼記念体育館の建設資金

体育館の建設規模は、当初計画では、合宿所、会議室、及び3千人収容のスタンドを有する大規模施設が構想されたが、種々の状況から現在の規模の施設に縮小され建設された。

建投資金は、総額2億4千万円を計上し、平沼記念体育館建設期成会が募金で集めた970万円余、その他の寄付金、神奈川県からの補助金5千万円と残りの資金を横浜市が負担した。

募金の中には、平沼亮三の文化勲章の年金や、小・中学生から寄せられた浄財も少なくなく、多くの人々の善意がこめられている。

横浜市平沼記念体育館 の設立

(6)平沼記念体育館の利用

体育館は、「日常体育」をモットーとされた平沼亮三の精神にのっとり、「見るスポーツ」より、「自分でするスポーツ」施設として多くの市民が利用できることをねらいとしている。

従って、神奈川県民や横浜市民を対象とした各種の競技会の利用を中心とする、

「アマチュアスポーツを目的」とする施設である。

なお、平成9年9月より、体育室床のフローリング、天井・壁の塗替えと照明器具の取替えにより、室内の照明度をアップし競技をしやすくするとともに、観覧席床の張替え、および観覧椅子を新しくするなど大幅改修工事を行い、平成10年4月1日にリニューアルオープンした。

〈参考資料〉

- 1)日本体育協会七十五年史 昭和61年
日本体育協会編集・刊行
- 2)横浜スポーツ百年の歩み 平成元年
横浜市体育史編集会議編集
横浜市教育委員会発行
横浜市平沼記念体育館保存資料
- 3)平沼亮三関係資料